

城北



平成30年11月1日現在	
総世帯数	3,635
総人口	7,803
男	3,717
女	4,086

城北の 沢村の道祖神 道祖神は子ども好き

中央図書館北にある沢村の稲荷神社の境内に大小二基の石の道祖神が鎮座しています。

一つは高さ70cm巾50cmで、骨太の文字で道祖神と刻まれている、安政六年(1859)正月に建てられました。

もう一方の道祖神は、高さ巾とも50cmでお札様の枠に文字が刻まれています。建立年代は分かりません。

元々の道祖神は、沢村と徒士町の境にありましたが、道路の新設に伴い稲荷神社境内に移されたといわれています。

道祖神のルーツは、今から1300年前の奈良時代まで遡りますが、道祖の文字から村境や外部からの邪悪なものを防ぐ神、道侯神、道祿神、賽の神などと呼ばれています。

道祖神が多く建てられるようになったのは、江戸時代の中頃からで、この頃になると仏教や神道、道教、民間などの信仰が様々に交じり合っただけでなく、盗人や疫病が村に入っただけでなく、子どもを守る以外に流行り病から子どもを守ることに変わり、更に双体道祖神のように子どもが授かるように願ったり、家内安全や夫婦円満など広い神様になりました。

殊に道祖神祭りが子どもたち中心におこなわれるようになってから道祖神と子どもたちとの結びつきが強くなくなりました。

道祖神祭りの時、子どもたちが道祖



神を棒で叩いたり突いたりしているうちに道祖神が倒れてしまった。これを見た大人が子どもたちを追い払って倒れた道祖神を起そうと手を掛けたところそのまま動けなくなってしまう。道祖神は子どもが大好きで子どもが何をしても怒りませんが大人が触ると怒るといふことです。

また長い間子どもが授からない夫婦が、道祖神は子ども好きの神様だからと願掛けしたところ間もなく子どもに恵まれ、この話が村中に広まって、子どもが欲しい夫婦が道祖神にお参りするようになった、という話もあります。

これらの話は佐久地方に伝わる道祖神にまつわるもので、道祖神と子どもたちの深い関わりが分かります。

松本地方でも双体道祖神にカボチャや餅を塗り付ける風習があります。これは気のいい道祖神が疫病神に病人のいる家を教えないうまじないだといふことです。また、嫁入り前の女性が道祖神に化粧をして、良いお婿さんが見つかるよう願う風習があるようです。

正月に門松や達磨を持ち寄って焚き上げる三九郎(地方によつてはどんと焼き又はどんと焼き)も道祖神祭りの一つで

今は病気になったり流行り病にならないように残り火で柳の枝に付けたまゆ玉を焼いて食べる風習だけが残っています。

松本市には、文字の道祖神や双体道祖神が300体近くありますが、旧城下町には昔からの道祖神はありません。理由は分かりませんが、それに代わる道祖神として木造の道祖神があり、頭屋と呼ばれる集落の責任者の持ち回りで祭りが行われているといふことです。

沢村の道祖神も昔のように地域の人たちに愛される道祖神になるといいですね。

明日の健康に「ウォーキング姿勢講座」

今後は病気がなったり流行り病にならないように残り火で柳の枝に付けたまゆ玉を焼いて食べる風習だけが残っています。

松本市には、文字の道祖神や双体道祖神が300体近くありますが、旧城下町には昔からの道祖神はありません。理由は分かりませんが、それに代わる道祖神として木造の道祖神があり、頭屋と呼ばれる集落の責任者の持ち回りで祭りが行われているといふことです。

沢村の道祖神も昔のように地域の人たちに愛される道祖神になるといいですね。



公民館体育部と福祉ひろば共催の「ウォーキング講座」が10月27日に、信州大学スポーツ医学講座助教の森川真悠子さんを講師に、40人が参加して公民館と旧測候所跡の沢村公園でありました。

講座は福祉ひろばで保健師の渡辺純唯さんが、骨粗しょう症を例に、適度

参加者たちは、森川さんの実技指導や模範演技に少しでも近づこうと熱心にウォーキングを繰り返していました。

講座参加者のひとり「2歳からこの歳まで何気なく歩いてきましたが、ウォーキングが心と体の健康に意義のあるものだと改めて実感しました。今日はとても心地よい汗を流しました」と話していました。

今後は病気がなったり流行り病にならないように残り火で柳の枝に付けたまゆ玉を焼いて食べる風習だけが残っています。

松本市には、文字の道祖神や双体道祖神が300体近くありますが、旧城下町には昔からの道祖神はありません。理由は分かりませんが、それに代わる道祖神として木造の道祖神があり、頭屋と呼ばれる集落の責任者の持ち回りで祭りが行われているといふことです。

沢村の道祖神も昔のように地域の人たちに愛される道祖神になるといいですね。

十五年続く

「開智読書の日」

教室のドアを開けると、期待に目を輝かせた子どもたちの姿が飛び込んできます。

今日は開智小学校、月1回の「開智読書の日」です。

十五年前から始まった読み聞かせの時間「開智読書の日」は、今ではお父さんや地域の人も加わり総勢60人以上になりました。朝の15分という短い時間で、民話や冒険もの、落語絵本などの読み聞かせですが、時に大爆笑のクラスがあったり、手拍子が響くクラスがあったりするなど、子どもたちは「読書の日」がくるのを楽しみにしています。60人以上もの大所帯になると読み人の日程調整も大変ですが、何よりも「本を通して素敵な時間を共有できて楽しい」ところからも続けた」とメンバーは頑張っています。



ふれあい広がる三四 (14町会)のお

19回目を迎えた城北地区のふれ愛まつりが、9月29日と30日に開かれました。

憎き台風24号の影響で初日は小雨となりましたが、実行委員会全員の願いが通じ2日目は感謝のまつりに相応しい日和になりました。

今年も各サークルや団体、開智小学校の金管バンド、ニューエバーグリーンの発表、あそびの広場の子どもの歓声、更に喫茶・販売係の呼び込み会場が盛り上がりました。

今年も地区住民の出品作品が減り、用意した1階、2階の展示場は少々空気が目立ちましたが、初出品の松本幼稚園や常連の開智小学校、旭町小・中学校、信大附属小学校の園児、児童、生徒の力作が館内を飾り華やかさを演出しました。

また初めての信大生の応援もあり、若い人たちとの交流の場にもなりました。

来年は城北公民館の開館20周年を迎えます。これまでのふれ愛まつりを通じて育てた集い合い、話し合い、励まし合う地区住民の力を結集して、新元号のなか素晴らしいふれ愛まつりにしましょう。

ふれ愛まつり

